

～認知症ステップアップ講座・声かけ～

3月16日に認知症サポーターステップアップ講座・声かけを実施しました。講座の前半は、認知症や認知症に至る状態の変化や症状、対応方法などの座学を行い、後半は、検索活動連絡票を使って認知症高齢者のモデルとなった老健職員を探索し、実際に声かけをする体験を行いました。特に声かけ体験では、事前情報を基にしているとはいえ、話かけるタイミングや変則的な認知症状の方の関わりに戸惑いながらも、何とかして力になりたいという気持ちがすごく伝わってきました。参加の皆様、お疲れさまでした。



～ボランティア交流会～

コロナ禍になって以後、老健のフロアでは外部からのボランティア受け入れを中止していました。しかし、いつまでも続くこの状況を何とか変えていきたいと受け入れ再開に向けて動き出すべく、3月23日に当施設においてボランティア交流会を実施しました。交流会では、コロナ禍以後の箕面老健の感染予防対策や活動内容など報告しました。受け入れを再開した場合の今後の方向性や活動内容を確認し、意見交換を行いました。開所当初より活動していただいていたグループということもあり、当時の思い出や今なら話せることなど懐かしい話に花が咲きました。大変貴重なご意見をいただき、とても有意義な時間をもつことができました。ありがとうございました。



～新職員紹介～

・看護師1名が新しく仲間になりました。よろしくお願いいたします。

—編集後記—

皆様いかがお過ごしでしょうか。コロナもですが、インフルエンザもそれ以上に猛威をふるっております。寒暖差もあり体調もなかなか追いつかず、なんだかしんどいなと感じる方も多かったのではないのでしょうか。老健ではそんな中でも積極的に各種講座の開催や、地域に出向き介護体験学習会を実施しました。守りながら攻める難しさはありますが、今年度も積極的に活動し、どんどん風穴を開けていきたいと思っております。
(文責：吉田秀幸)

箕面老健通信



令和5年5月発行

第46号

箕面市立介護老人保健施設の理念

1、人権尊重

自己決定権を尊重し、安全を確保して医療・看護・介護・リハビリテーションサービスを包括的に提供します。

2、在宅復帰・在宅支援

住み慣れた地域で生活できるように家庭復帰と在宅生活の支援を行います。

3、地域福祉の推進と福祉文化の創造

福祉がいつでも、どこでも、誰でも権利として享受できるよう支援します。

箕面市立介護老人保健施設

〒562-0014 大阪府箕面市萱野5丁目8番2号

指定管理者 箕面市社会福祉協議会

TEL 072-727-9530

FAX 072-727-3598



～就任のご挨拶～



この度施設長として赴任しました円山誓信（まるやませいしん）です。利用者の方々が日々の生活を快適に送れるように微力ながらお手伝いさせていただきたいと思っています。どうかよろしくお願い致します。

私は数年間発展途上国の保健省で、保健政策立案の仕事にかかわらせて頂いたことがあります。その時痛感したのは上の方針が現場職員に共有されていなければいられないほど地域の状態がよくなるという（当たり前と言えば当り前の）事実でした。またそれが実現するためには、そもそも方針が明快であること、現場からの意見の吸い上げ方法が確立していること、方針を実行しやすい柔軟な組織形態があることが必要であることも実感しました。

最近、労働者の働き方を改善するための政策として働き方改革が話題になっています。ここには労働時間の短縮、労働条件の向上、労働者の尊厳の向上などが含まれます。ここに一つのデータがあります。「病院職員の満足度が高ければ高いほど入院患者の満足度は高い」というものです。これは働き方改革がサービス向上につながる良い例です。一方で働き方改革とサービス向上を両立させるなどという虫の良い話があるだろうかと思われられる方もおられるかも知れません。私はその心配は不要であると思っています。日本が誇る「改善」の手法によってそのような危惧は払拭されるどころか、むしろサービスの質は向上するからです。改善とはムリ・ムダ・ムラを徹底排除する方法です。そしてムリ・ムダ・ムラがなくなれば、職場環境は確実に良くなり、仕事へのモチベーションもあがります。その一方で改善が難しいのは、それが組織的取り組みであること、継続し続けなくてはならないこと、成果の中には一定の時間経過が必要で、そのため目的が共有されていなければ動機が下がりやすいことです。困難があるとはいえ、利用者の方々を中心に、皆さんと一緒に諸先輩方の歩んでこられた道を更に前に進めていけたらと思います。





退任のご挨拶



田中 千足

本年3月31日をもちまして1年間勤めてまいりました施設管理者を退任させていただきます。1年間という短い間でしたが私にとって大層勉強になることばかりで、これから一精神科医として、箕面を中心とした地域の精神医療、障害者福祉、高齢者福祉に力を入れて行こうと思っておりますが、この1年間の経験はとても貴重なものと思っています。

ご利用しておられる利用者さんは「生活のしづらさ」を持っておられるわけで、その「生活のしづらさ」をいかに減らし、その方の人生はその人らしく生きてこれたと振り返れるようにするかを全スタッフともに心がけてきた積りです。

「生活のしづらさ」を改善する支援はとてとても一筋縄ではいきません。うまくいかない時、いったい私はどれだけの力量を持っているのかと情けなくなるものでした。そんな私を勇気づけていただいたのはほかでもない利用者さんのキラッと光る人生の一コマの話、まあ何という大変な出来事を潜り抜けてこられたのかという話、あるいはさりげないやり取りの中でこちらを気遣うあいの言葉などなどです。

さらに思いがけない出会いもありました。その方は京都の嵐山の近くに住んでおられたということなので、ある日の回診の時に聞いてみました。

「私は桂高校の卒業ですが、嵐山も学区内に入っていましたね。」

「私、桂高校の第1期の卒業生です。」

「エー、私の大先輩でいらっしゃる！1年生から入ったんですか？」

「私、旧制の（京都）府立（京都）第5中学校に行っていたんです。上桂の今は桂中学がある所に通っていたんです。阪急嵐山線の松尾から上桂まで電車乗ってね。」「学制が変わり第5中はなくなり、新制桂高校に行きなさいと。今度は桂まで電車になりました。」

桂高校の大先輩に出会えたお蔭で、桂高校は府立ナンバー中学の後継ではなく、その前身は向陽農業学校だというちょっとした負い目を払しょくできたのです。確かに今は耳が遠くて少し近時記憶は怪しくなっておられますが、なんと私に勇気を与える情報を教えて下さったのです。

皆様、有難うございました。



～節分：豆まき👹～



2月3日に老健2階、3階フロアにて節分行事を行いました。

年に一度の行事ということでスタッフも気合を入れ利用者を脅かして回りました。老健では、豆を投げるのではなくお手玉を使いました。豆のつもりで思いっきり投げる方や優しく投げる方もおられました。時には男性利用者が鬼に立ち向かっていく様子も見られ利用者、スタッフ共に笑い合い楽しい時間を過ごしました。

～お抹茶🍵～



3月3日。ひな饅頭に添えて、お抹茶を提供させていただきました。

特に女性の利用者は若いころお茶を嗜まれた方も多く、お茶碗を手にとると慣れた手つきで召し上がっておられました。「やっぱり香りが良いね」「お抹茶は美味しいわ。おかわり」などの声も。茶道具を見て、懐かしそうに「茶筌やね・・・」とお茶に関するエピソードを語ってくださる方もおられ、袱紗さばきも見事に流れるようなお手前を披露してくださり、何服もお茶を点てて振舞って下さいました。若いころ身に着けたことはいつまでも忘れないものですね。

～箕面市立老健独自のホームページを開設しました📄～

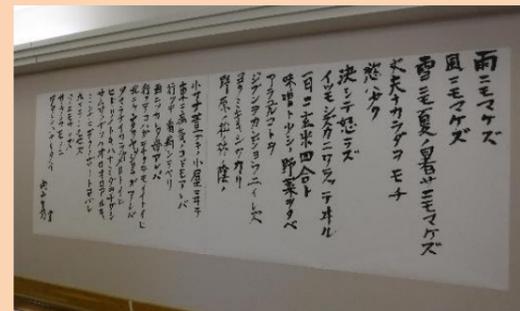
初めて当施設をご利用いただく方やケアマネジャーなどの関係機関の方に施設の雰囲気を知っていただくため、またご利用者やご家族へ当施設の情報量を充実させるとともに、当施設で働こうかなという求職者へ施設の魅力を発信するために、施設独自のホームページを開設しました。

ぜひご覧いただき感想などお聞かせいただければと思います。

URL <https://minoh-rouken.jp>



～利用者書道作品🖋️～



書道を嗜んでおられる利用者にスタッフが声をかけ、宮沢賢治さんの有名な「雨ニモマケズ」全文を書き上げられました。筆跡もかすれ具合も程よく、味のある作品ができました。3階フロアで展示させていただきました。他の利用者や職員から褒められ、謙遜しつつもまんざらでもなさそうな表情をされていました。自室前の廊下に展示していたので、立ち止まっては何度も作品を鑑賞されている姿が印象的でした。

